



2020年10月30日

各位

会社名 株式会社トライアイズ
代表者 代表取締役社長 池田 均
(コード4840 JASDAQグロース)
問合せ先 執行役員経理部長 上嶋 悦男
電 話 03(3221)0211

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2020年2月13日に公表いたしました2020年12月期通期(2020年1月1日～2020年12月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 2020年12月期通期連結業績予想の修正(2020年1月1日～2020年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,500	200	130	110	13円88銭
今回修正予想(B)	1,019	101	37	4	0円58銭
増減額(B-A)	△480	△98	△92	△105	—
増減率(%)	△32.0	△49.3	△70.9	△96.0	—
(参考) 前期実績 (2019年12月期通期)	1,715	250	179	125	15円79銭

2. 修正の理由

弊社グループの主力事業である建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業において、①当第3四半期連結会計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、当初及び第2四半期時点の予測を超えるものであったこと及び②第2四半期連結会計期間時点では当連結会計年度内で収束すると見込んでいた新型コロナウイルスの完成拡大の影響が連結会計年度以降も継続し、現時点において第3四半期連結会計期間以降も売上高が当初の予測(以下、「当初計画」と記載します。)まで回復しないことが見込まれます。

係る状況を踏まえ、当連結会計年度における建設コンサルタント事業及びファッションブランド事業の売上高を試算した結果、両事業における売上高が現時点で2020年2月13日に公表した当初計画を大幅に下回る見込みとなったほか、当該売上高の減少により営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益いずれも当初計画を下回る見込みとなったことに伴い、2020年12月期通期連結業績予想を修正するものであります。詳細は次項ご参照願います。

(売上高の修正について)

建設コンサルタント事業においては、受注高が当初の計画を若干下回ったことに加え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、第2四半期連結会計期間時点では当連結会計年度内で完了すると見込んでいた業務が工期の延長に伴い、完成時期が翌期へ先送りとなりました。このため、当第3四半期累計期間における建設コンサルタント事業の売上高は310百万円（当初計画比51.8%減少）と当初の計画を下回る結果となりました。

連結会計年度内で完成を見込んでいた案件の工期が来期に先送りとなったこと及び当初連結会計年度内で収束すると見込んでいた新型コロナウイルス感染拡大の影響が現在も継続しており、業務の完成時期が当初より遅れがちとなっている目下の状況を踏まえ、連結会計年度の完成案件を試算した結果、当連結会計年度における建設コンサルタント事業の売上高は、554百万円と見込んでおります。（当初計画比31.6%減少）

ファッションブランド事業においては、外出自粛要請及び冠婚葬祭等のセレモニーの中止を受け、主力製品の需要が激減したことに加え、当社製品販売先である小売店も休業を余儀なくされました。第3四半期連結会計期間においても、売上高が第2四半期連結会計期間において見込んでいたほど回復を見せず、当第3四半期累計期間における売上高は183百万円（当初計画比50.4%減少）と当初の予測を大幅に下回る結果となりました。

また、第2四半期時点では当連結会計年度内に収束すると見込んでいた新型コロナウイルス感染症拡大の影響が現在も継続し、足元の売上高が当初の想定ほど回復していない状況が継続しております。ファッションブランド事業においても、当該新型コロナウイルス感染症拡大の影響は当連結会計年度以降も継続することが見込まれます。

以上の状況を踏まえ、当連結会計年度における売上高を試算した結果、当連結会計年度におけるファッションブランド事業の売上高は262百万円と見込んでおります。（当初計画比48.3%減少）

なお、投資事業につきましては物件が安定的に稼働したことを受け、売上高は151百万円（当初計画比1.3%増加）と当初の計画どおりに進捗いたしました。収益物件については今後も安定した稼働が見込まれ、当連結会計年度における投資事業の売上高は202百万円（当初計画比1.4%増加）とほぼ計画どおりに進捗する予定であります。

以上より、当連結会計年度の売上高は、全体で1,019百万円（当初計画比32.0%減少）となる見込みとなります。

(営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の修正について)

売上高は前述のとおり当初計画から大幅に減少する見込みであります。過年度から取り組んでいる固定費の削減活動により、当連結会計年度の販売費及び一般管理費については438百万円（当初計画比26.0%減少）とさらなる削減が見込まれるものの、売上高の減少を賄うには至らず、営業利益は101百万円（当初計画比49.3%減少）となる見込みとなりました。営業外損益は当初の予測どおり推移し、且つ想定外の特別損益項目が発生しないと見込んでいることから、経常利益は37百万円（当初計画比70.9%減少）、税引前当期純利益については71百万円（当初計画比56.3%減少）となる見込みであります。

親会社株主に帰属する当期純利益でございますが、法人税の負担が利益の減少に比して減少せず、ほぼ当初の予測どおりとなる見込みであるため、親会社株主に帰属する当期純利益については4百万円（当初計画比96.0%減少）と、通期黒字となる見込みではあるものの、当初計画を大幅に下回る見込みとなります。

以上